

2019年7月11日

町田市長 石 阪 丈 一 様

町田市廃棄物減量等推進審議会
会 長 永 井 進

2018年度 一般廃棄物資源化基本計画の進捗点検の結果について（報告）

2019年度第1回（2019年4月25日開催）、第2回（2019年7月11日開催）町田市廃棄物減量等推進審議会において、2018年度の一般廃棄物資源化基本計画及びごみ減量アクションプランの取り組みについて進捗点検を行いました。その結果を、以下のとおり報告します。

記

1. 2018年度一般廃棄物資源化基本計画進捗点検について【総括】

2011年度の「一般廃棄物資源化基本計画」策定から、2018年度で8年間が経過しました。この間、ごみ量は毎年減少を続けています。引き続き、2015年度11月に策定した「ごみ減量アクションプラン」の施策を着実に実施し、市民・事業者と一体となり削減目標の実現を目指すこととなります。

2018年度のごみとして処理する量は91,789トンで、前年度と比べ1,105トン（約1.2%）、基準年の2009年度と比べ7,363トン（約7.4%）減少しています。この間の人口は、基準年である2009年度422,112人から2018年度の428,589人と、6,477人（約1.5%）増加しているにもかかわらずごみ量が減少した結果、1人1日あたりのごみ量（g/日）に換算すると、643.5gから586.8gへと56.7g（約8.8%）の減少となっています。

2015年11月に策定した「ごみ減量アクションプラン」の、発生抑制・資源化による削減目標に目を向けると、基準年度の2013年度比で7,211トン減少しており、目標値（13,700トン減量）に対して約52.6%の進捗率となっています。また、目標値のうち、施設の整備に伴う収集後資源化（3,000トン）を除いた10,700トンに対しては、約67.4%の進捗率となっています。さまざまな取り組みが成果となって現れており、順調に減量が進んでいます。

ごみの内訳をみると、「燃やせるごみ」は、63,161 トン(前年度比 550 トン減)、「事業系ごみ」は 18,831 トン(前年度比 814 トン減)、「燃やせないごみ・粗大ごみ・有害ごみ」は 9,797 トン(前年度比 259 トン増)となっており、粗大ごみは減少しましたが、燃やせないごみと有害ごみが増加しています。

今後は、これら減量の推移が継続できるよう、現状に甘んじることなく、更なる施策の工夫を求めます。

2. 2018 年度ごみ減量アクションプランの進捗点検結果について

2018 年度の進捗点検については、「ごみ減量アクションプラン」で設定した5つのターゲットのうち、施設の整備に伴い達成が見込まれるターゲット 4「収集後資源化」を除く、ターゲット 1「生ごみ」、ターゲット 2「紙類」、ターゲット 3「事業系ごみ」、ターゲット 5「協働・パートナーシップ」の4つのターゲットについて実施しました。

ごみ減量アクションプラン策定後3年を経過し、各施策も展開されております。そこで、今回の進捗点検では、2018 年度の減量数値等の結果も評価しつつ、施策を展開するまでの過程や施策の取り組み効果等も重視して評価を行いました。

評価の基準は「A」「B」「C」「D」の4段階とし、各委員の評価をもとに、平均値及び意見等を踏まえ審議会としての評価としました。

2018 年度の進捗点検結果は以下のとおりです。

<評価基準>

- 【A】 ⇒ 大幅に取り組みが進んでいる（引き続き取り組む）
- 【B】 ⇒ 取り組みは進んでいる（もう少し取り組みを強化し進める）
- 【C】 ⇒ 改善（取り組み内容を検証し、効果的に進めるために、施策内容、実施回数、施策のスケジュール等の修正が必要）
- 【D】 ⇒ 新たな取り組みを検討し進めていく

町田市廃棄物減量等推進審議会
2018年度ごみ減量アクションプラン進捗点検結果

評価 C	【ターゲット1】	評価理由	<ul style="list-style-type: none"> • 様々な啓発事業を行い、参加者が増加し、実施回数も目標を上回っている。 • 生ごみ処理機やダンボールコンポストの普及拡大に課題が残っている。
	生ごみ (3,000トン)	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> • まだ市民の間にごみ減量についての意識が十分に浸透していない。 • 生ごみ処理機やダンボールコンポストの普及が進んでいない。 • たい肥化のメリットを家庭で享受できる世帯は限定的ではないか。
		提案事項	<ul style="list-style-type: none"> • 家庭での無駄をなくすことと、家庭内処理が重要なことを継続的に広報すること。 • 燃やせるごみに含まれる生ごみの混入割合は減少傾向にあるが、さらなる減少に向けて新たな施策を検討すること。 • 生ごみ処理機の普及が進まない根本的な原因を確認し対策を講じること。 • 生ごみ処理機からの一次生成物（たい肥のもと）の活用方法について周知を行うこと。 • ダンボールコンポストは相対的に普及しやすい印象なので、こちらに注力すること。 • ダンボールコンポスト利用者の情報交換会などを行い、継続して利用するための支援を行うこと。 • 大型生ごみ処理機導入に関して、自治会だけではなく、マンション等の管理会社にアプローチすること。
評価 B	【ターゲット2】	評価理由	<ul style="list-style-type: none"> • 様々な取組を行い、回収量が増えている。 • 燃やせるごみに含まれる紙類の混入割合が減っており、市民の分別意識や分別情報が普及している。
	紙類 (2,500トン)	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> • 雑がみとして出せるものと出せないものの判断が難しい。 • 雑がみ回収の実績値は増加しているが、目標値には届いていない。
		提案事項	<ul style="list-style-type: none"> • 燃やせるごみに混入しやすい雑がみは何か調査し、ターゲットを絞った啓発をおこなうこと。 • 資源化できる紙が燃やせるごみとして出されるのは、分別が理解されていないことと、面倒なことが主な要因だと思われるので、継続的に広報すること。 • 資源化できる紙、資源化できない紙について、自治会やマンションの管理組合を通して周知すること。

【ターゲット3】	評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ・事業系ごみの排出量は順調に減少しており、引き続き削減努力が進められることが期待される。 ・ルールブックを活用した啓発が徐々に浸透してきている。 ・多忙な事業者への情報提供に、他部署の説明会等を活用している。
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・紙類の回収拠点設置のめどが立たない状況が続いている。 ・中小規模事業者への取組み周知について課題を残している。個別への働きかけの困難さに対し商店会、商工会議所を通じたアプローチを通し、成果が上がるよう取組みが必要。
	提案事項	<ul style="list-style-type: none"> ・組成調査の結果によれば、不適正物の混入は減少してはいるものの、依然として半分近い割合を占めているため、適正排出を徹底させること。 ・ごみ処理関連部門の担当者だけでなく、事業者全体の意識を高めるためのアプローチをすること。 ・事業者を業種別に分類したうえで、きめ細かな指導を行うこと。 ・中小事業者を対象に訪問指導を実施すること。 ・「まちだ☆おいしい食べきり協力店」の認定事業者数を増やすための施策を検討すること。 ・事業者の古紙の回収方法について、関係者と継続して協議していくこと。
事業系ごみ (5,000トン)		
評価	B	
【ターゲット5】	評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座、不動産関係者や保健所、スポーツ団体、市民団体、相模原市などと積極的な連携を行い、ともに活動したことは評価できる。 ・リサイクル広場は各地域で定期的開催され、ごみ減量の必要性を身近に感じてもらえている。
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル広場の空白地域がある。 ・コンビニとの連携が不十分。 ・イベント時のPR方法について工夫が必要。
	提案事項	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル広場の空白地域での開催等、開催場所を増やすこと。 ・コンビニとの連携方法を検討すること。 ・大学生に対して、「ごみ分別アプリ」だけでなく、雑がみの分別等についての啓発も行うこと。 ・イベント時のPR方法について工夫をすること。
協働・ パートナーシップ		
評価	B	